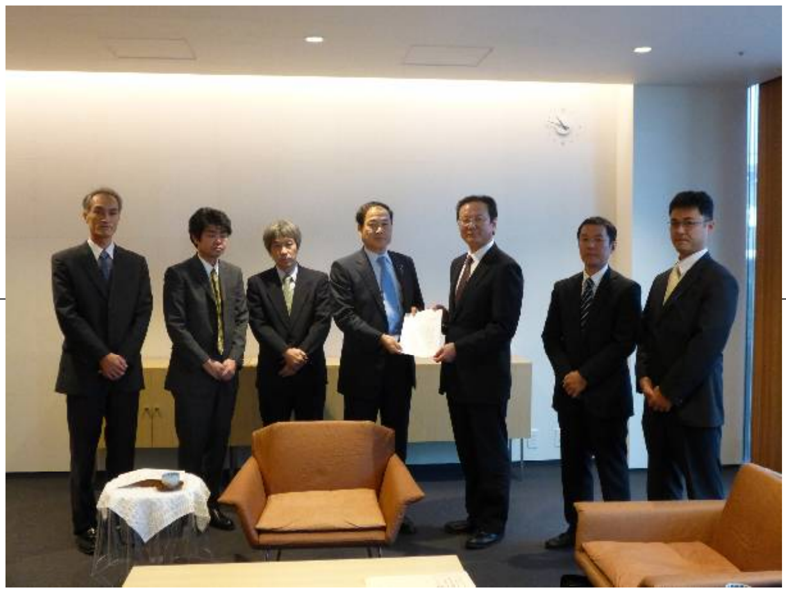
れんごう中越地協

第803号2013.11.11
連合中越地域協議会
長岡市東蔵王2-2-68
TEL 0258-24-0515
FAX 0258-24-8930
発行人　矢島　良彦
定　価　１部１０円
購読料は会費に含む

２０１４年度予算編成に向け

森民夫長岡市長へ要望書を提出

主な要望事項を説明し、後日に文書で回答を求める



連合中越は10月22日(火)、長岡市の森民夫市長を訪ね、２０１４年度長岡市予算編成への反映を求めた市政要望書を提出し、後日文書で回答を求めた。

この日は、連合中越矢島議長をはじめ政策福祉担当の横澤副議長と羽賀副議長、小堺副議長、小林事務局長、青柳事務局次長の６名が長岡市の森民夫市長を訪れた。

要望書は、政策福祉担当が中心となって各構成組織の意見を踏まえ取りまとめ、第70回地協委員会を経て提出に至った。

矢島議長から森民夫長岡市長へ要望書を手渡し提出したのち、横澤副議長が、主だった要望事項について説明した。

特に、総括・地方自治に関しては、連合のめざす「働くことを軸とする安心社会」の理念と長岡市の「市民との協働」とあい通じる理念に基づいた市政運営や連合中越との対話の継続。公契約条例や労務監査の制度化検討と市民に分かりやすい原子力防災対策や実効性ある訓練を求めた。

また、雇用・労働政策では障害者の雇用や労働環境の整備と就労後の相談支援策の強化を求めた。

経済・産業政策では、長岡のモノ作りの特色を生かした産業育成と雇用創出を求め、社会保障・医療・福祉政策関係では、パーソナルサポートセンターが行っている新潟県生活困窮者自立支援モデル事業の長岡市による14年度モデル事業主体への応募と制度化検討等を求めた。

また、教育政策では労働に関する権利や義務を知らないことによるトラブルを避ける意味からも労働教育の推進などを求めた。

これに対し、森市長からは、公契約は全国的問題ととらえており、国に統一見解を求めたい事、原子力防災は今回の訓練を分析し資料化したい。また、障害者の雇用関連では、物品納入の優遇化や長岡市とハローワーク・商工会議所で雇用対策協議会を形成し対応していることが述べられた。さらに、生活困窮者自立支援モデル事業については15年度法制化に向けスムーズに移行できるよう対応したいとの見解などが述べられた。

後日、回答書を受けたのち、政策福祉担当で分析する。また、構成組織へも周知を行う。

連合新潟第23回定期大会

14・15年度の2年間の運動方針決定

齋藤会長・牧野事務局長をはじめとした役員体制を確立

連合新潟第23回定期大会が、11月1日(金)に新潟市で開催され、14～15年度運動方針と齋藤会長をはじめとした役員体制を決定した。

齋藤会長は挨拶で「大会で2年間の運動を決めスローガンのもとに、『働くことを軸とする安心社会実現』と『１０００万連合に基く組織拡大』、『労福協運動』が安心社会づくりに重要だ。政治課題は連合の政策実現のため必要だ」等と述べた。

各界の来賓挨拶後、２０１３年度活動報告、同財政報告、同会計監査報告が報告され承認した。また、報告では、募金活動を支援した「なぎくん」の現状報告がされた。

次に、第1号議案として新潟県厚生連合同組合の連合新潟加盟について満場で承認した。続いて、「14～15年度運動方針」を決定し、同役員も決定した。大会では、地方公務員給与削減、30人以下学級の取り組み、高校授業料無償化への所得制限導入、地域に根ざした運動としての平和運動やＴＰＰに対する運動等について質問があり、牧野事務局長が見解を述べた。最後に、大会アピールを確認し14年度の運動がスタートした。

秋の相談ダイヤル
街宣で最賃額改定周知

新潟県最低賃金額「７０１円」が発効した10月26日(土)十日町支部をスタートにして南魚沼支部、翌日は北魚沼支部と小千谷支部、最終日は長岡市エリアと見附市内をまわる秋の相談ダイヤルキャンペーンと最低賃金周知を兼ねた街宣が行われた。

最終日の28日(月)には、寺泊地域から栃尾地域を廻り、沿道の市民やショッピングセンターの買い物客に呼びかけた。ティッシュを受取った中には「私も仕事したい」という年配者もいた。

東蔵王２
≪No.128≫

事務局長　小林　守

厚生労働省は10月29日に、学校を卒業して就職後3年以内に仕事をやめた割合を発表した▼それによると10年3月の大卒者で31%、前年に比べて２・２ポイント上昇した。業種別では宿泊業・飲食サービス業(A)51%、教育・学習支援業48.9%、生活関連サービス業・娯楽業(B)45.4%等。高卒者は39.2%で前年度から３.５ポイント増。(A)が66.6%、(B)が62.1%。▼特に新規学卒者の卒業後1年以内の離職率は高卒19.5%、大卒12.5%と高く、12年3月卒の離職率は、高卒19.6%、大卒13%と高い。厚生労働省の労働市場分析レポートでは上昇の要因を規模の小さな企業・離職率の高い業種への就職割合が上昇したことを挙げている▼報道では大学卒業後1年で退社したインタビューが流れ、退職の最大理由を長時間労働とし、その女性は雇用契約書に拘束時間25時間等であったことや33時間余り連続勤務した等を言っていた▼まさしく「人の使い捨て」「立場の弱い若者を利用したビジネス」だと言える。これらを許さなず、不条理に抗する社会づくりが求められるし、労働法制度にかかる労働教育の必要性を感じる。今の労働法制をも守れない中で、雇用に関する規制緩和はもってのほかだ。

サラリーマン川柳（偽装食　高級ホテルで　妻ランチ）（紅葉狩り　紅葉見るより　食がさき）（まだ続く？　お詫び会見　次もある？）（体重計　50グラムで　笑う妻）

第１７回柿川周辺清掃と歴史探訪の集い

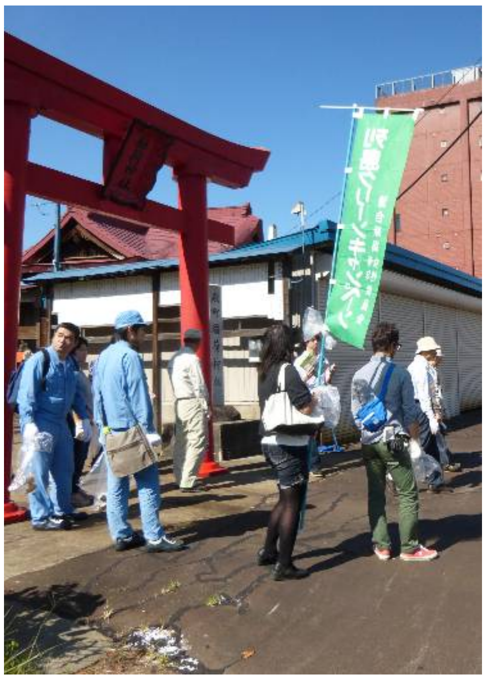
ゴミを拾いつつ、長岡の歴史に触れる

晴天の下、子どもを含め55名が参加

晴天に恵まれた9月28日(土)、午前9時より「第17回柿川周辺清掃と歴史探訪の集い」が開催された。当日は子どもを含めた55名が参加した。

南町公園に集合し、SJネット藤田委員が司会を務めた。佐々木実行委員長挨拶のあと、行動指示や注意事項の連絡を受けたのち、参加者は「本丸健脚コース」「観音さまコース」「藩校コース」「智慶さま最短コース」(うち2コースは戦災資料館に立ち寄る)4コースの紹介を受け、それぞれ希望するコースに分かれ出発した。参加者たちは柿川周辺のゴミ拾い清掃活動を行いつつ、各コースに1名ずつ郷土史研究会のガイドが付き歴史の説明を受けた。

全コースとも午前11時には集結場所の平和の森公園に到着した。ゴミは合わせて4袋程度となった。各コースの参加者たちからは「ゴミは全体的に少なかったが吸い殻が多く落ちていた」との声があった。



第二部では、コースガイドも努めていただいた郷土史研究会の会長である今井雄介氏より「信濃川と中島」と題して、「昔は、平和の森公園の所は信濃川の奔流が流れていた時代があった、水道タンクのある付近は川西と地続きであるという文献がある」など、面白く分かりやすい説明で講演いただいた。

講演終了後は、トン汁・おにぎりを食べ解散となった。

第８回ＳＪＮ委員会定期総会
（青年・女性委員会通算第23回定期総会）

- 日時　12月11日(水)
  18：30～(受付18：00～)
- 場所　長岡市勤労会館３階

※詳細は発文第178号(10.28付)

サラリーマン川柳

（期待から 待機に変わる 社の人事）
（パソコンで 目ばかり先に 歳をとり）
（お化粧で だせない若さ 声にだし）
（天職だ 思い違いだ 転職だ）